

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成31年4月25日(2019.4.25)

【公表番号】特表2018-510717(P2018-510717A)

【公表日】平成30年4月19日(2018.4.19)

【年通号数】公開・登録公報2018-015

【出願番号】特願2017-550629(P2017-550629)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/29 (2006.01)

A 6 1 B 1/018 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/29

A 6 1 B 1/018 5 1 5

【手続補正書】

【提出日】平成31年3月13日(2019.3.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 5】

上述したように、内視鏡把持装置 1 0 は、フォーク 1 8 と、第 1 顎部 2 0 と、第 2 顎部 2 2 とを備える。各顎部は、前歯と後歯を含む一組の歯を有する。図 1、図 3 及び図 4 に示すように、第 1 顎部 2 0 と第 2 顎部 2 2 は、フォーク 1 8 上のピボット点 5 0 の周りに取り付けられる。顎部 2 0, 2 2 は、例えば、図 3 に示す開放位置と、例えば、図 4 に示す閉鎖位置との間で、スライダ 3 4 をリング 3 6 に対して移動することで、操作可能である。顎部 2 0, 2 2 は、当該分野で公知の任意の適切な材料で構成されても良い。例えば、顎部は、ステンレス鋼で構成されてもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 6】

顎部 2 0, 2 2 は、各フォーク上のピボット点 5 0 a を中心に回転するように取り付けられる。上述したように、リベット 2 4 は、第 1 顎部 2 0 の開口部 5 0 b と第 2 顎部 2 2 の開口部 5 0 c を介して取り付けられる。顎部 2 0, 2 2 は、それぞれ、ピボット点から近位に延在する舌部 1 3 0, 1 3 2 を備える。本発明の実施において、他の取付構造を使用できることは、当業者に明らかである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

図 1 1 及び図 1 2 を参照すると、顎部の中心線 C L は、ピボット点 5 0 c を通る軸として定義される。後歯の特徴は、この右側面図と左側面図において理解することができる。前歯 8 0 は、中心線 C L を超えて延在し、後歯 9 0 a, 9 0 b, 9 0 c は、中心線 C L ま

でだけ延在する。中心線 C L で接触する 2 組の後歯が、図 6 に示されている。図に示すように、第 1 顎部 2 0 の後歯は、顎部の中心線 C L において、第 2 顎部 2 2 の後歯 9 0 a , 9 0 b , 9 0 c と接する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

さらに、図 1 1 に最も良く示すように、各顎部の後歯は、有利に形成される。図 1 1 は、上側顎部 2 2 の右側面図である。上側顎部は、3 列の後歯 9 0 a、9 0 b、9 0 c を有する。図から明らかなように、各後歯は、後傾した、または突端から顎部の遠位先端に向かって、下方に傾斜している前面 (front profile) を有する。上側顎部 2 2 は、本質的に丸みを有しない各歯 9 0 a、9 0 b、9 0 c の頂部に、突端 9 2 a、9 2 b、9 2 c を形成するように機械加工されている。後歯の尖った形状のエッジは、例えば、ステント、チューブ、または他の種類のプラスチックなどの柔らかいプラスチック製の異物を、挟持するのを促進する。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3】

